

平林 たい子

現在の長野県諏訪市出身。貧しい農家に生まれ、12歳の頃にロシア文学を読んだことがきっかけで作家になることを決心し、上諏訪町立諏訪高等女学校（現在の長野県諏訪二葉高等学校）に首席で入学。高女時代に社会主義に関心を持ち始め、同校卒業後に上京して交換手見習いとして働き始め、アナキスト山本虎三と同棲。山本の姉を頼って朝鮮に渡るが、1ヶ月で帰国。関東大震災直後のどさくさの中で検挙され、東京から離れることを条件に釈放される。結局日本では生活できなかつたため満州に行き、大連の病院で出産するが、この女兒は栄養不足のため、生まれてわずか24日目に死亡した。労農芸術家連盟に属し、その体験に基づく『施療室にて』でプロレタリア作家として認められる。1927年（昭和2年）小堀甚二と結婚（1955年（昭和30年）、小堀に隠し子がいたことが判明したため離婚している）。1946年（昭和21年）『かういふ女』で第1回女流文学者賞を受賞した。

Wikipedia より転載